

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理検査研究班 提出日：2019 年 4 月 22 日 報告者：山口 温子

行事種別	研究会	行事番号	190000167
開催日	2019 年 4 月 20 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋第二赤十字病院 研修ホール (所在地 名古屋市)		
テーマ	生理検査を円滑に行うために		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	赤羽乳腺クリニック 山口 温子		
講 師	講演 1：チーム医療推進のための「チーム STEPPS」 公立陶生病院 医療安全管理室 医療安全管理者 伊藤 智弘 講演 2：呼吸機能検査症例報告 ～医師に連絡を必要とした症例～ 藤田医科大学病院 関根 秀治		
内 容	医療事故・インシデントの要因は半数以上が非医療技術、単純なヒューマンスキルによって生じていると言われている。チームステップス(Team STEPPS)は米国の医療研究・品質調査機構がチームとしての取り組みによって医療のパフォーマンス向上と患者の安全を高めるために開発したツールであり、現在、医療安全対策の一つとして取り入れている施設が増えている。今回は公立陶生病院で医療安全管理者をされている伊藤智弘看護師を招き、チームステップスの意味とその概要を講演していただいた。実際に起こった症例を交えてわかりやすく講演していただき、医療者チーム間でのコミュニケーションにおいて、相手に内容を正しく伝えること、気になることや不安に感じた場合に声をあげることなど、事故を防ぐためのスキルの重要性を理解することができた。また講演内では聴講者から有志を募り、舞台上で 7 人×3 チームに分かれワークショップを行った。生理検査研究班としては新しい試みであったが、チームの一員として実践すべきことを、ワークショップを通じて参加者はもちろん見学者もよく理解することができたと感じた。症例報告では実際の呼吸機能検査の現場で医師への連絡を必要とした例やその連絡方法を具体的に報告した。 (報告：山口 温子)		
参加者	総数：73 名 (会員 70 名、県外会員 2 名、その他 1 名)		
共催、後援など	なし		

2019.04.22

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理検査研究班 提出日：2019 年 7 月 21 日 報告者：花井 甲太郎

行事種別	研究会	行事番号	190003227
開催日	2019 年 7 月 20 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	(株) スズケン本社ビル 2 階 大会議室 (所在地 名古屋市)		
テーマ	虚血を極める ～多分野からのアプローチ～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋掖済会病院 花井 甲太郎		
講 師	講演 1 検体検査の視点から 藤田医科大学病院 西垣 亮 講演 2 生理検査の視点から ～心エコー検査を中心に～ 小牧市民病院 岸 久美子 講演 3 放射線検査の視点から 名古屋第二赤十字病院 医療技術部放射線科 西條 貴哉		
内 容	生理検査に関わらず、いろんな視点から疾患に対してアプローチすることは、病態を把握するうえで非常に重要です。今回は『虚血を極める～他分野からのアプローチ～』というテーマで虚血性心疾患に対して検体検査・生理検査・放射線検査の視点から 3 名の講師の先生に講演していただいた。 講演 1 では、西垣技師より各種心筋マーカーの特徴や測定データを解釈するうえでの注意点などをお話しいただいた。また高感度トロポニンの登場により、急性心筋梗塞発症後 2 時間以内の超急性期の診断にも使用できるようになり、臨床への普及が望まれると実感した。 講演 2 では、岸技師より冠動脈の走行と支配領域に関して詳しく解説していただいた。心筋梗塞の合併症のお話では、症例を経験したことがない人でも分かるように実際の心エコー画像を提示しながら解説していただいた。 講演 3 では西條技師より各種放射線検査の特徴や画像の見方などを詳しく解説していただいた。検査技師にとっては馴染みのない検査であるが、その都度症例を提示しながらお話しいただき、理解しやすい内容であった。冠動脈造影検査の解説では、左手の法則という独自の読影方法を伝授していただき、参加者が実際に自分の手を使いながら検査画像を理解する様子が見えた。		
参加者	総数：128 名（会員 124 名、県外会員 2 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他（講師：放射線技師）1 名）		
共催、後援など	なし		

2019.7.21

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理検査研究班 提出日：2019 年 10 月 26 日 報告者：柴田 康孝

行事種別	研究会	行事番号	190016760
開催日	2019 年 10 月 19 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋第二赤十字病院 加藤化学カンファレンスホール		
テーマ	心電図の基礎的な内容 ～日当直に役立つ心電図～		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	JA 愛知厚生連江南病院 柴田 康孝		
講 師	講演 1. 波形の成り立ちから ST 変化～基礎を中心に～ 碧南市民病院 山田 裕香 講演 2. 緊急を要する心電図 JA 愛知厚生連海南病院 樋口 昌哉 講演 3. こんな心電図を見かけたら～自動判読の落とし穴や有効利用～ 名古屋第一赤十字病院 倉田 貴規		
内 容	心電図検査は生理検査担当のみならず、当直や救急業務など携わる機会が多いと思われる。本研究会では、心電図の基礎、臨床、症例の視点から基礎的な知識を深められるような内容を企画した。 心電図波形の成り立ちはイオンチャネルや虚血による変化など、基礎的なものとした。緊急対応が必要な心電図は、図を多用して解説した。かつ心電図判読は重要であるが、患者状態の確認や医師への報告などの判断の重要性も提示した。また自動解析による心電図判読のピットホールについて、症例で比較をしながら解説した。 本研究会では、生理検査担当以外の技師の参加も見受けられた。心電図は基本的な検査であるが、臨床において患者の病態把握や治療方針の決定に重要である。個々のスキルアップはもちろん、業務に生かせる知識を取得できたことを期待する。 (報告：柴田 康孝)		
参加者	総数：161 名（会員 159 名、県外会員 0 名、非会員 1 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、申請中 1 名）		
共催、後援など	なし		

2019.11.26

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理検査研究班 提出日：2019 年 11 月 16 日 報告者：榊原 久美子

行事種別	講演会	行事番号	190019875
開催日	2019 年 11 月 16 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋市立大学医学部研究棟 11 階講義室 A (所在地名古屋市)		
テーマ	術中モニタリングの基礎と臨床		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	名古屋大学医学部附属病院 榊原 久美子		
講 師	1. 術中モニタリングの各種モダリティについて 半田市立半田病院 西脇 啓太 2. 脊椎手術と術中モニタリング ―脊椎外科医からみた治療戦略― 名古屋大学医学部 整形外科 小林 和克		
内 容	術中モニタリングは、全身麻酔下において、神経障害の有無を早期に発見・予防するために有用な方法である。今回は、「術中モニタリングの基礎と臨床」というテーマで、技師の視点から基礎の話を、医師の視点から臨床の話を聞くことで、術中モニタリングの知識を深められるよう企画した。 講演 1 では、半田市立半田病院の西脇技師から、術中モニタリングに必要な ME の基礎知識、各種モダリティの特徴とピットフォールトラブルシューティングについて講演いただいた。 講演 2 では、名古屋大学医学部附属病院の小林医師から、モニタリングで気を付けておくべきポイントや、実際にモニタリングが役立った症例の提示、日本脊椎脊髄病学会で提唱しているモニタリングのチャンネル数や、組み合わせ、執刀医に警戒を促すべきアラームポイントについて、さらには、最近の知見について講演いただいた。		
参加者	総数：74 名（会員 73 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他（講師：医師 1 名）		
共催、後援など	なし		

2019.11.16

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理検査研究班 提出日：2019 年 12 月 11 日 報告者：加藤 鮎美

行事種別	基礎講座	行事番号	190019886
開催日	2019 年 12 月 8 日 (日)		
時 間	開 始	9 時 30 分	終 了 16 時 00 分
場 所	J A 愛知厚生連豊田厚生病院 2 階講義室 A・B・C (所在地 豊田市)		
テーマ	初心者集まれ！始めよう腹部超音波検査		
生涯教育履修点数	専門教科 20 点		
司 会	J A 愛知厚生連江南厚生病院 柴田 康孝		
講 師	講義 1：超音波の基礎、胆嚢・胆道 地域医療機能推進機構中京病院 加藤 鮎美 講義 2：脾臓 愛知医科大学メディカルクリニック 淀川 千尋 講義 3：肝臓 JA 愛知厚生連豊田厚生病院 藤田 啓介 講義 4：腎臓、脾臓 名古屋大学医学部附属病院 笹木 優賢 ランチョンセミナー：病変の捉え方とチェックポイント 藤田医科大学医療科学部 刑部 恵介		
内 容	腹部超音波検査初心者向けに実践向けの講義とハンズオンを行った。 講義 1 では超音波の基礎として、ゲインやダイナミックレンジなど超音波装置の調整の仕方、呼吸コントロールやプローブの走査方法の工夫、多重反射やサイドローブなど画像に悪影響を及ぼすアーチファクトについてなど腹部超音波検査を行うために必要な基礎知識について講演した。講義 1～4 では肝臓、胆嚢、胆道、脾臓、腎臓、脾臓の各臓器の解剖や描出方法・評価方法・ピットフォールなど観察するときのポイントについて講演した。また、ランチョンセミナーでは、超音波の基礎から肝臓・胆嚢・脾臓の病変の描出・撮像ポイントをわかりやすく講演した。 ハンズオンでは、実技講師が各臓器で指定された画像を描出するための走査時の注意点や描出方法の工夫の仕方を説明後、受講者が実技を行った。プローブ持ったことのない人からすでに検査に携わっている人までそれぞれ受講者に合わせた説明や苦手な走査のアドバイスを行った。		
参加者	総数 86 名(会員 82 名、県外会員 1 名、非会員 2 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 1 名)		
共催、後援など	なし		

2019.12.19

愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：生理研究班 提出日：令和 2 年 2 月 16 日 報告者：手嶋 充善

行事種別	研究会	行事番号	190029629
開催日	令和 2 年 2 月 15 日 (土)		
時 間	開 始	15 時 00 分	終 了 17 時 00 分
場 所	名古屋市立大学医学研究科 医学部研究棟 11 階 講義室 A		
テーマ	2019 年度愛臨技サーベイ解説		
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点		
司 会	豊橋市民病院 手嶋 充善		
講 師	1. 愛臨技精度管理報告 総括 手嶋 充善 (豊橋市民病院) 2. 心電図検査 倉田 貴規 (名古屋第一赤十字病院) 3. 腹部・表在超音波検査 塚本 実奈子 (愛知医科大学病院) 4. 心臓・血管超音波検査 犬塚 斉 (JA愛知厚生連 安城更生病院) 5. 脳神経検査 鍋谷 洋介 (トヨタ記念病院) 6. 呼吸機能検査 鈴木 優大 (医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院)		
内 容	2019 年度愛臨技サーベイの解説を行った。分野ごとに 5 名の技師が設問ごとに詳しい説明を加えて解説した。とてもわかりやすく解説されていて、設問の意図や関連する症例等も提示されていた。昨年度に引き続き、本年度も問題作成に際して注意を払い、班員相互のチェックも強化したため、概ね良好な正答率であった。今年度は新たな試みとして、数値・計測設問を作成した。設問の作成には苦慮したが、地域サーベイとしての数値設問は意義があると感じた。今年度の結果を踏まえて、来年度はより改良した設問作成に取り組みたいと考える。 動画媒体においては、昨年度同様に web のみでの公開にした。不具合等の報告もなく来年度も続けていきたいと思う。 今後も内部精度管理も含め、日常業務につながるような精度管理の問題作成を進めていきたい。 (報告：手嶋 充善技師)		
参加者	総数：68 名 (会員 68 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名)		
共催、後援など	なし		

2020.02.21